

# 中国語入門科目の授業デザインに関する考察 ——「中国語オプショナル」における実践から

干 野 真 一

## 0、はじめに

本稿では、筆者が担当している「中国語オプショナル」（週1コマ×15回の入門講義）の平成22、23年度における実践を紹介しつつ、入門科目における授業デザインを考察する。第1章では、先ず、前提として新潟大学の初修外国語カリキュラムに対する「外国語オプショナル」の位置づけを明らかにし、第2章では「中国語オプショナル」の授業運営の全体を述べる。続く第3章では具体的な教材例として、筆者が考案した発音練習用の単語プリントについて紹介する。さらに第4章では、本科目を受講した学生からのアンケートおよび聴講していただいた2名の教員からのコメントをもとに本科目を客観的に振り返る。そして第5章において、前章までの検討を踏まえて今後の課題を整理し、中国語入門科目の授業デザインについて考察する。

## 1、新潟大学方式とオプショナル

新潟大学では平成16年から初修外国語カリキュラムの抜本的な改革に着手し「新潟大学方式」とよばれるカリキュラムを導入した。その要点は、次の二点に集約される。一点目は、従来の一律的なカリキュラムを廃止し、半期週一コマの導入型講義、通年週3コマの標準コース、通年週4コマの集中コースという3コースを柱とした「コース選択性」を導入し、学部や学生からのニーズの多様化に対応したことである。二点目は、意欲ある学生が上級レベルまで計画的に学べる「4年一貫教育」のカリキュラムを整備した点である<sup>1</sup>。

本稿で取り上げる「外国語オプショナル」科目は、その名が表す通り、卒業要件単位である「初修外国語」区分からは外れる講義科目（半期2単位）である。多様化する学修ニーズに応え、第三、第四の外国語として異文化に対する基礎的な理解が出来るよう開講されたものである。試行の平成20年度では、ロシア語とイタリア語で開講され、平成21年ではフランス語を加えた3言語となり、平成22年にはドイツ語と筆者が担当する中国語を加えた合計5言語の「オプショナル」が開講されている。

---

1 新潟大学方式についての詳細は、次のHPを参照されたい。(http://verba.ge.niigata-u.ac.jp/)

## 2、「中国語オプショナルA」の授業運営

### 2.1 目標設定

本節では本科目シラバスの記載を抜粋し、目標設定等について紹介する。まず、「科目の概要」および「科目のねらい」については、以下の通り。

科目の概要：中国語学修に意欲のある方が、学部、専門、学年を問わず、第三、第四の外国語として履修できる中国語の入門コースです。

科目のねらい：中国語及び中国文化について学びながら、新しい視野を獲得することを目指します。

これらは「〇〇語、〇〇文化」の部分进行他の言語や国名に置き換えれば、外国語オプショナルの科目にはほぼ共通の内容である。外国語オプショナルの主旨は、異文化に対する基礎的な理解を目指すものであり、言語習得はその一環として位置づけられる。

しかしながら、本科目では言語習得の部分に重点を置き、また、中国語の入門期における発音習得の重要性に鑑みて、学習の到達目標を次の二点としている。

- 1、正しい発音で自己紹介ができるようになること。
- 2、中国語を自修するための基礎を固めること。

いずれも、結局のところ、中国語の正しい発音の習得を目指すことを意味する。なぜなら、1については、中国語初学者にとって、音声のみで自分の名前や所属等を相手に伝えることは決して容易ではなく、それを目標とすることは音声表記法であるピンインの理解、正しい発音の習得に直結するものであると考えるためである。また2については、第三、第四外国語として学んでから、授業期間を終えて自修する場合、読み・書きについては自修しやすいものの、音声学習が疎かになる可能性が高いからである。そのため、授業時間中に出来るだけ中国語の音声体系を体得できるよう、科目の重点としている。

中国文化そのものへの理解は、教室に限ってのみ達成されるものではなく、書籍や映像等を通じての学習が可能である。しかしながら、正しい発音の習得には、教室内における発音指導・矯正が必要不可欠であるとの考えに立つものである。そして、入門期における発音の習得が一定レベルに達していなければ、実際に使用する場面において、コミュニケーションすら成立しない状態となることが予想されることから、授業では出来るだけ音声教育を重視したものを目指している。

前章で紹介した他の初級コースとは異なり、本科目は週1回×15週という限られた授業時間であり、そこには入門科目として「何をどこまで教えるか」という、量と質の問題に配慮する必要がある。1.5時間×15回という実質22.5時間の授業時間において、どこまで「達成感」を伴う授業が可能かを考えるにあたり、やはり、発音習得を最重要課題として、今後の中国語学修の基礎の構築に重点を置く方が、学生中国語学習過程を将来的な長いスパンで見た場合、上策であると考えた。実際、シラバスにおける授業計画にも「毎回、発

音練習を行う。」と明記しており、担当者の主観ではあるが、全授業時間の60%近くを、発音指導にあてた<sup>2</sup>。

本科目の目標は「中国語を自修するための基礎を養う」ことにあり、検定試験の○級合格レベル、といった点には置かれていない。中国語の発音に対する苦手意識を持たずに、大まかにでも文構造を掴む力を養うことで、授業期間終了後でも単語を調べつつ自修していくことが可能であると考える。

## 2.2 テキストと小テスト

本科目のシラバスには授業の進め方として、「教科書および配布プリントにより授業をすすめる」と記載した。前節で言及した通り、15回の授業時間で達成できる学習量は限られており、到達目標は発音習得がメインとなっていること、そして、授業後も自修が可能なものという観点から、テキストは比較的廉価で自修も十分に可能な平易な内容のものとした。なお、一部のセンテンスにピンイン表記と並んでカタカナによる読み方も表記されているが、カタカナ部分は無視するように指示をしている。また、カタカナ表記ではピンイン自体の音声には対応しきれない点も授業の中で言及した<sup>3</sup>。

中国語の発音の習得には、ピンインを正しく読めて書けることが不可欠であるが、本科目では、楽しく効率よく学ぶための発音プリントを使用した。次章ではその発音プリントについて詳しく紹介する。その他の配布プリントとしては、履修学生の氏名のピンイン表記一覧や、授業中に流す中国歌曲の歌詞などを適宜配布した。

授業では、発音練習を毎回行いながら、教科書を読み進める形式とした。小テストについては、H22年度は数回のみの実施だったが、H23年度は毎回実施することとし、より定着を図った。その結果、一週間に1コマという頻度ながら高い意識で取り組ませることが可能となった。その他、DVDを使った文化紹介などを行った。

## 2.3 履修者数について

筆者が担当する中国語オプションは、これまで平成22、23年度の2年にわたり開講され、その履修者の内訳は以下の通りである。各表の分布状況からは、科目開設の趣旨に沿って、学部、学年を問わず、多様な履修が確認される。

表1 「中国語オプションA」履修者（学部別）

|     | 人文 | 教育 | 法 | 経済 | 理 | 医 | 歯 | 工 | 農 | 合計 |
|-----|----|----|---|----|---|---|---|---|---|----|
| H22 | 3  | 7  | 9 | 1  | 2 | － | － | 4 | － | 26 |
| H23 | 9  | 9  | 3 | 1  | 2 | － | － | 6 | 2 | 32 |

2 たとえば、一般企業社員向けのレクチャーのように、数回の講義を受けた後、すぐさま海外赴任といった場合とは事情が異なり、じっくりと発音習得を目指すものとなっている。

3 一例として“星期六你有事吗?”に「シンチーリョー ニー イョウ シー マ」とルビがあり、「そり舌音」がカタカナでは上手く表記できない点などを紹介する。もっとも、中国語のピンイン表記にも表記と音声に対応していない点が見受けられるものの、カタカナでは日本語からの干渉が妨げられないため、筆者の授業においては推奨していない。

表2 「中国語オプションA」履修者（学年別）

|     | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 |
|-----|----|----|----|----|----|
| H22 | 11 | 7  | 6  | 2  | 26 |
| H23 | 24 | 7  | 1  | -  | 32 |

人文、教育、法といった、いわゆる文系学部の受講生が目立つが、工学部など理系学部からの履修生も一定数が見られる。次節では、授業初回に実施しているアンケート結果から、学生が中国語オプションを履修した理由について考察する<sup>4</sup>。

## 2.4 学生の履修動機

本節では、初回に実施しているアンケートの回答を抜粋、紹介する。本科目の履修動機で多くみられたものは、グローバルな視点から中国語が重要であるという観点に基づくもの、身近なところで中国や中国語と接する機会がある、という二点である。特に後者については、中国語を学んですぐにコミュニケーションをとる機会があるという点で、高い学習モチベーションとなり得る。以下、それぞれの具体的回答について数名分を紹介する。（カッコ内は履修年度／学年）

- ・中国が世界において重要な地位を占めるようになって興味を持ったから。（H22／1年）
- ・将来、国際的なビジネスに関わる機会があったら、中国語が必須であると思ったから。（H22／2年）
- ・日本と中国は近いので、中国語を知っておけば役立つと思ったから（H22／3年）
- ・中国がめざましい経済発展を遂げている今、中国語に少しでも親しんでおきたいと思ったから。（H23／1年）
- ・中国語が必須となるのは時間の問題だと思ったから。（H23／2年）
- ・中国語に興味があって、これから社会で中国語が求められると思ったから。（H23／1年）
- ・地球上で、5、6人に一人は使用する言語であるから、少しでも触れてみたいと思った。（H23／2年）
- ・中国の経済発展はめざましいものがあり、どんどん力を持ってきているため、中国語を学ぶことで、将来に役立つと思ったから。（H23／1年）
- ・中国人留学生と中国語で会話をしてみたいと思ったから。（H22／1年）
- ・学科に中国人留学生が多くおり、その人たちのチューターになったので、少しでも相手の文化を知りたいと思ったため。また、自分も中国への留学を考えているため。（H22／2年）
- ・留学生ともっと交流を深めたいから（H22／1年）
- ・親が中国に単身赴任していて、旅行で少し案内をしてもらったら、興味が湧いて、中国

4 医学部、歯学部はキャンパスが異なることから、現実的な点で、履修が難しいものと思われる。なお、実現の可否はともかくとして、医学部・歯学部向けの外国語オプションという発想自体は、今後の展開として可能性がある。

語もやってみたいと思っていたから。(H23/1年)

- ・バイト先に中国から来た留学生がいて、その人と話すうちに中国や中国語に興味を持った。(H23/2年)
- ・大学四年間のうちに、お金を貯めて中国に行こうと考えているから。(H23/1年)

次に、本科目で中国語のどのような部分を習得したいかについての回答を紹介する。総じて、「簡単な会話ができるレベル」というものが多かった。この目標は、担当者の私見としては、やはり15回のみではハードルが些か高いと思うものの、一方で、限られた授業回数であることは学生側もよく理解しており、今後の学習につながる基礎的な部分（とくに発音に関して）の習得を期待するコメントも多く見られた。

- ・中国語の基礎を身につけ、これからの中国語の学習に役立てたい。(H22/2年)
- ・ある程度自分で勉強するきっかけにしたい。(H22/2年)
- ・発音の向上と、基本文法を確実に押さえること。(H22/3年)
- ・中国語の発音の基本的な部分だけでも習得すること。(H22/4年)
- ・簡単な会話（自己紹介など）が出来るようになりたい。(H22/3年)
- ・自由に操れるとまではいかなくとも中国語で簡単な会話が出来ようになりたいです。(H22/1年)
- ・発音は、自分一人ではなかなか勉強しづらいので、しゃべる練習がしたいです。(H23/1年)
- ・挨拶や自己紹介など、日常会話くらいは出来るようになりたいです。(H23/1年)
- ・簡単な日常会話が出来ようになるくらいの能力を身につけたい。(H23/1年)
- ・少しでも中国語の発音を習得できたらいいです。(H23/2年)
- ・自己紹介を、中国語ですらすら言えるようになりたい。(H23/1年)
- ・簡単な文章が書けるようになりたい。(H23/1年)
- ・自分の趣味程度として、中国語がほんの少し話せるようになること。(H23/1年)

### 3、単語プリントについて

#### 3.1 単語プリントの使用

本章では、筆者が授業で配布している発音習得のための単語プリントについて、紹介する。授業では、初回のガイダンスを経て、第2回目から本格的な発音の指導に入るが、初めに中国語の母音、子音および声調について一通り説明した後、次頁の「覚えたら直ぐに使える単語表」プリントを配布している（A4片面1枚）。後述の通り、このプリントには常用語彙のみを収録しており、徹底した反復練習を通じて、発音の定着を図っている。

プリントは「覚えたら直ぐに使える」と銘打っており、常用語彙のみであるためマスターすれば使用機会が多いはずであるが、しかしながら、ここには「からくり」が存在している。それは、「使える」ためには正しい発音で話せ、聞きとれる必要があること、つまり、発音の習得が不可欠であるという点であり、「使える」ために学習者は発音習得に励むこととなるのである。

図1 発音習得のためのプリント

☆覚えたら直ぐに使える単語表

|     | 無気音                         | 有気音                        |                        |                             |
|-----|-----------------------------|----------------------------|------------------------|-----------------------------|
| 唇   | 爸爸 bàba<br>不好 bùhǎo         | 朋友 péngyou<br>漂亮 piàoliang | 妈妈 māma<br>每天 měitiān  | 非常 fēicháng<br>服务员 fúwùyuán |
| 舌尖  | 东西 dōngxi<br>大家 dàjiā       | 他们 tāmen<br>问题 wèntí       | 女人 nǚrén<br>那里 nàli    | 老师 lǎoshī<br>努力 nǔlì        |
| 舌根  | 工作 gōngzuò<br>高兴 gāoxìng    | 可是 kěshì<br>可能 kěnéng      | 很多 hěnduō<br>回来 huílái |                             |
| 舌面  | 今天 jīntiān<br>觉得 juéde      | 起来 qǐlái<br>汽车 qìchē       | 喜欢 xǐhuan<br>学习 xuéxí  |                             |
| そり舌 | 知道 zhīdao<br>这样 zhèyàng     | 吃饭 chīfàn<br>唱歌 chàngē     | 时候 shíhou<br>什么 shénme | 人们 rénmén<br>如果 rúguǒ       |
| 舌齒  | 现在 xiànzài<br>怎么样 zěnmeyàng | 点菜 diǎncài<br>厕所 cèsuǒ     | 所以 suǒyǐ<br>公司 gōngsī  |                             |

<基本語順>

我 Wǒ 明天 míngtiān 在 zài 星巴克 Xīngbākè 跟他 gēn tā 喝 hē 咖啡 kāfēi。  
わたし わたし あす あす ~で [ ] ~と 彼 飲む コーヒー  
[主体] [時点] [地点] [共同者] [述部]

●語気助詞(終助詞)

~吗? ma ~ですか  
~呢。 ne ~だよ  
~吧!/? ba ~でしょう!/?

### 3.2 語彙選定

単語表の各マスには、それぞれ中国語の頭子音を含む単語を2語ずつ、配置しており、実用性を重視して語彙選定を行った。

既存の初級テキストにおいても、声調や頭子音を解説している部分で、例として単語が紹介されているが、本プリントでは、複数の役割を担わせている。つまり、軽声をも含む声調組み合わせ、各頭子音の発音方法を、常用語彙からマスターすることを可能にした。具体的には『常用汉语1500高频词语表』を指標として、二音節単語の上位語が多くなるように選定した。単語表に収録した42語のうち、30語が上位300位に入っており、常用語彙が並ぶ<sup>5</sup>。具体的な順位は次の通り。(カッコ内は複音節語のみの順位)

什么38 (4)、他们47 (6)、知道66 (7)、时候70 (9)、老师76 (10)、  
起来81 (11)、现在89 (13)、这样91 (14)、喜欢110 (18)、人们122 (23)、  
可是130 (26)、今天131 (27)、工作132 (28)、觉得135 (29)、东西138 (31)、  
朋友145 (33)、大家149 (35)、妈妈155 (38)、如果160 (41)、爸爸170 (45)、  
学习177 (48)、所以179 (49)、非常182 (50)、很多189 (54)、回来201 (62)、  
问题208 (63)、高兴222 (70)、可能250 (85)、怎么样268 (95)、每天272 (99)

これらの常用語彙を使いこなせるようになることで、初級の文法項目を理解すれば、すぐにそれらを応用した作文が可能となる(3.4参照)。次節では、実際に発音指導を行う場面での手順を紹介する。

### 3.3 実際の教授場面

単語表の左端の縦のラインには、口腔における調音点からの分類がなされており、横並びのマスにおいて各子音が同じ調音点であることが理解される。プリントの導入にあたり、唇音から舌歯音にいたる調音点について、学生に口の中を「探検」させている。

実際の発音練習では、先ず各マスの一行目のみを“爸爸、朋友、妈妈、非常、东西、他们…”と、一通り学習する。学生が辞書を持っている場合は、意味調べを宿題とする場合もあるが、このプリントを配布するのが学習開始後まもない時期である場合や、辞書の購入を必須としない場合は、教員により意味を伝える。

しばらくの期間は一行目のみに集中させ、その後、一行目がある程度定着した時点で、二行目もマスターさせる。

授業中は、全体で音読をした後で、机間巡回しながら一人ずつあてて、発音指導をすすめる。あてられた学生が上手く発音できない場合は、教員側から、すぐに答え(模範音声)を示すのではなく、「一文字目はOK、二文字目の声調をしっかりと」といったアドバイスを行う。また、表中における他の語彙からも正しい発音を類推させる。たとえば「朋友、人们、时候」は同じ声調の流れ」などとアドバイスして、「第二声+軽声」の発音を導く。

5 筆者の印象として、初級テキストの声調組み合わせ表や、当該子音を用いた単語例として採用される単語には、編者が日本人である場合、名詞が多いように思われるが、本プリントでは、動詞や副詞、接続詞なども収録している。

さらに、“点菜、現在”から“cai/zai”の違いを理解させたり、有気音、無気音の縦ラインのみをそれぞれ、連続して練習することで、違いを説明することも可能である。

また、課外においても、このプリントを学生に一通り読ませることで、どのような発音上の癖があるのかを知ることが可能であり、発音指導のきっかけとしても有効である。

上述の指導ポイントは一例であるが、学生の習得状況に応じて自在に活用しつつ発音指導を進める。それを毎回の授業の冒頭に反復して行うことで、学生に中国語の音声体系を体得させるという目標に近づくことが可能である。また、本プリントはオリジナルプリントであるため、教科書に見られる附属の音声CDがない。そこで、筆者とネイティブの教員による模範音声を録音して学生に配布し、自習の用に供している。

### 3.4 実際の作文例

本章では単語プリントの具体的な活用方法を紹介しているが、単語プリントに使われている単語同士や、初級の文法表現を駆使すると、比較的容易に、平易な作文が可能となる。単語プリント下部には、“我明天在星巴克跟他喝咖啡。”という基本語順を紹介する例文、さらには“吗、呢、吧”という3つの終助詞も盛り込んでいる。

これにより学生は、与えられた語彙、習った文法を駆使して、作文を行うことが可能である。それは、このプリントのタイトルにある「覚えたらすぐに使える」を体現することに他ならない。以下に、学生からの解答例を紹介する。(単語プリント収録の語彙には下線を付す)

|                 |   |                     |
|-----------------|---|---------------------|
| 妈妈 每天 什么 时候 起来? | / | 今天 有 很多 工作 吧。       |
| 他们 都 喜欢 唱歌。     | / | 我 非常 高兴 呢。          |
| 朋友 在 那里。        | / | 我 有 很多 问题。          |
| 妈妈 高兴, 我也很 高兴。  | / | 大家 什么 时候 吃饭?        |
| 你 也 现在 吃饭 吗?    | / | 那 是 谁 的 汽车?         |
| 爸爸 每天 非常 努力 工作。 | / | 她 每天 在 那里 跟 学生们 唱歌。 |

上記には、単語プリントの語彙を出来るだけ用いた文を挙げたが、基本の動詞や虚詞を活用することで、表現の幅が大幅に広がることが確認される。そして、教員の指導の下、学生はそれぞれの語彙の基本的な用法を学び、例えば“喜欢唱歌”という構造の“唱歌”のように「語形変化」することなく、そのまま“喜欢”の目的語になれるという点などを通じて、中国語の特徴を学ぶことになる。

無論、学び始めて間もない段階における文法事項は単純なものが多く、学生は作文が簡単であると考えてしまいやすい。しかしながら、実際のコミュニケーションの場面では、これらを音声のみで伝えたり、理解したりすることが必要であることを学生に認識させ、音声習得の意識を高く保たせるようにしている。

### 3.5 定着への工夫 カルタ、歌の活用

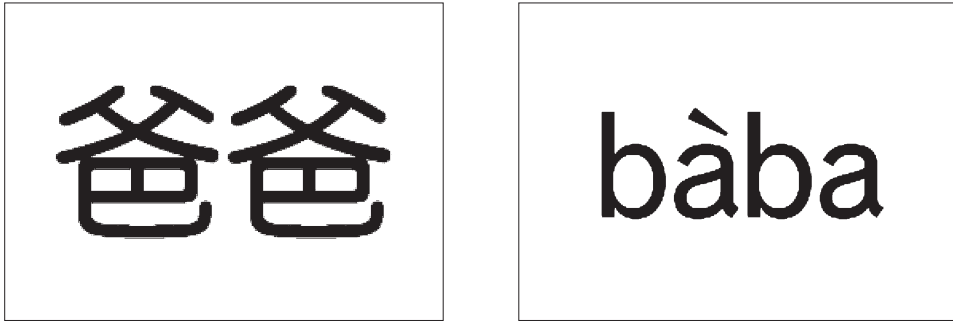
単語の暗記には、ひたすらに唱えることも必要であるが、時には、気分転換をしつつ定着を図ることも大切であると考え。ここでは、単語表の語彙をカルタや歌に活用して、



習熟度の確認やモチベーションの維持に努めている教案を紹介する。

カルタについては、比較的丈夫な用紙に単語表の語彙を配置し、両面印刷した。オモテ面には簡体字を記し、ウラ面にはピンインを表記したものを作成し、およそタテ5.3センチ、ヨコ7.5センチの大きさにカットして、42枚1セットのカードを数セット作成した。次の図を参照されたい。

図2 単語カルタの例



準備として、学生には5～6名ごとにグループを作らせ、学習机を数脚くっつけて、その上にカードを並べさせる。その後、教員が一単語ずつ読み上げ、学生は読み上げられたカードを取っていく、というものである。授業中に気分転換を行う意図もあるが、当然ながら、しっかり覚えている者が多く取れるため、期間をおいて数回実施することで、モチベーションUPにもつながると考える。

実施方法も、「ピンイン」の面を上向きに置かせて、教員が中国語で単語を読み上げる、または日本語の意味を言って取らせる方法や、「簡体字」の面を見えるように置かせて、同様に読み上げるなど、カードの置き方と読み上げる内容の組み合わせを変えることで、難易度を変えつつ実施することが可能である。

続いて、歌を活用した教案として『我只在乎你』の例を紹介する。この曲には日本語版と中国語版があるが、学生たちは歌手を知らなくてもメロディーはどこかで聞いたことがあるという場合が多い。

先に日本語版を聴かせてメロディーを確認させ、その後で中国語版を流す。中国語版を流す前に、配付した歌詞が「穴埋め」になっていることを学生に伝え、学生の習熟度によって、単語プリントの語彙を含む“如果、哪里、怎么样……”といった語彙をランダムに板書し、「どれかが入ります、注意して聴きましょう」とアナウンスする。このようにすることで、音楽を聴く際に耳への意識が向上する。授業中、とっさにはそれほど書き取れないものの、それでも“如果、怎么样、所以”といった語彙は聞きとれる場合が多いようである<sup>6</sup>。

本節では、二つの教案を紹介したが、単語表の語彙は常用語彙であるため出現場面も様々であり、さらなる応用が可能であると考えられる。

6 授業時には、“的”を“di”と歌う習慣があることや、本来の声調が反映されない場合もある点、さらには日本語と中国語では歌詞の文字数が異なり、情報量に差があること、等も紹介する。

## 図3 歌詞を使った穴埋め練習

| Wǒ zhǐ zài hū nǐ  | Dèng Lìjūn | 我只在乎你  | 邓丽君 | 時の流れに身をまかせ テレサ・テン   |
|---|------------|--|-----|---|
| ( ) méiyǒu yùjiàn nǐ ,<br>wǒ jiāng huì shì zài( )?<br>Rìzi guòde ( ) ,<br>rénshēng shǐfǒu yào zhēnxī ?<br>Yěxǔ rènshi mǒu yī rén ,<br>guòzhe píngfán dì rìzi .<br>bù ( ) huì bú huì ,<br>( ) ( ) àiqíng tián rú mì ?  |            | ( ) 没有遇见你,<br>我将会是在( )?<br>日子过得( ) ,<br>人生是否要珍惜?<br>也许认识某一,<br>过着平凡的日子。<br>不( ) 会不会,<br>( ) ( ) 爱情甜如蜜?             |     | もしも あなたと<br>逢えずにいたら<br>わたしは何を<br>してたでしょうか<br>平凡だけど<br>誰かを愛し<br>普通の暮らし<br>してたでしょうか                   |
| Rèn shíguāng cōngcōng liú qù ,<br>wǒ zhǐ zài hū nǐ .<br>Xīngānqíng yuàn gǎnrǎn nǐ de qìxī .<br>Rénshēng jǐhé nénggòu dédào zhījǐ ?<br>Shīqù shēngmìng de lìliang( ) bù kěxī .<br>( ) wǒ qiú qiú nǐ ,<br>bié ràng wǒ líkāi nǐ .<br>Chúliǎo nǐ , wǒ bù néng gǎndào<br>yī sī sī qíngyì . |            | 任时光匆匆流去,<br>我只在乎你。<br>心甘情愿感染你的气息。<br>人生几何能够得到知己?<br>失去生命的力量( )不可惜。<br>( ) 我求求你,<br>别让我离开你。<br>除了你, 我不能感到<br>一丝丝情意。 |     | 時の流れに<br>身をまかせ<br>あなたの色に染められ<br>一度の人生それさえ<br>捨てることもかまわない<br>だから お願い<br>そばに置いてね<br>いまは あなたしか<br>愛せない |

## 4、学生、教員からのコメント

## 4.1 学生コメント

本章では、授業期間終了時に実施している授業評価アンケートから自由記述コメントを転記し、筆者の発音指導に重点を置いた中国語の入門講義がどのように受け取られていたのかを検証する。本節では学生からのコメントを掲載する。少し分量が多くなるが、学生による生の声であり、本科目の成果を測る上で必要な情報であるので、すべて掲載するものとする。

## H22年度

(良かった点)

- ・分かりやすく教えていたと思います。
- ・指定された教材が分かりやすいものだった。同じ単語を何度も練習することで覚えることが出来た。発音を重点的にやることで実践に役立てられる良い授業だった。
- ・先生が学生一人一人をちゃんと見ていた点。
- ・分かりやすく良かった。繰り返し発音練習できて良かった。
- ・中国語の歌をみんなで歌ったり、発音中心の授業だった点。
- ・同じところを何回も発音練習し、それなりに上達したと感ることができた。
- ・発音中心で、暗記で終わらず、実用的なところが良かったです。
- ・発音練習の機会が多かった。

## 中国語入門科目の授業デザインに関する考察

- ・先生が親身でした。
- ・基本的な部分を学ぶことができたのでよかった。
- ・毎回の授業で丁寧な説明があり、授業内容が理解しやすかった。発音中心で良かった。
- ・発音を重点的に練習できた点。中国語の歌を聞いた点。
- ・読み方が発音中心で生活で使える中国語を学べた点。
- ・発音を何度も繰り返して練習したこと。中国語楽しい！と思いました。
- ・先生が根気強く発音を教えてくれた点。
- ・文法だけじゃなく、発音や会話等を中心に進めてくれたので、楽しく中国語を学ぶことができました。これからも、自分で少しずつ勉強を進めていきたいです。

(要改善点)

△あまり進まなかった(進めなかった?)週2回にするべきではないか?

△授業の進行スピードが遅かった。

△もっと授業の回数が多いといいなと思った。

△留学生を授業に呼んでみてはどうでしょうか。

### H23年度

(良かった点)

- ・ビデオ資料が分かりやすかった。
- ・新しい文や単語が出てきた時に、何度も読む練習をさせてくれ、また、学生ひとりひとりの発音チェックをしてくれたところがとても助かりました。初めての中国語だったけど、とても楽しく勉強できました。謝謝!! ありがとうございます。
- ・発音は独学で勉強するのが難しいので、ていねいに教えて下さり、良かったです。実用的な中国語を学べて良かったです。
- ・発音に重点を置いた点。
- ・発音の練習が中心的で、おもしろかった。個々の発音を確認してくれるので、集団でやった時には気づかないミスとかも分かって良かった。
- ・ビデオを見るなどしてネイティブの発音を聞けたし、文化も分かって面白かった。
- ・発音やピンインが難しかったです。中国には一度でいいから行ってみたいので、講義が終わっても自主学習したいと思います。
- ・やっていて楽しかった。けれどやっぱり発音が難しく半年の勉強ではとても足りないなと思った。
- ・発音の仕方を重点的に勉強できたことに満足しています。中国語の発音は舌の使い方が複雑で難しかったです。何度も繰り返すうちに少しずつコツがつかめました。
- ・発音などを丁寧に教えてくれたこと。
- ・読みの練習に多くの時間を割いた点。
- ・発音練習を何度もやったおかげで、家に帰っても音が頭に残ったまま学習できた。
- ・毎週小テストを行ってくれるところ。
- ・四声の読み方がある程度身に付いたと思う。少人数なので、丁寧な指導であったこと。
- ・先生が発音を1人1人に丁寧に教えてくれた点。
- ・発音に重点を置いていたので、基礎がしっかりできてよかった。

- ・旅行に使える会話だったので、今後に役立てたい。
- ・発音練習を何度も繰り返していたので、会話試験では思ったよりスムーズに話すことができたと思う。発音練習の大切さがよく分かった。
- ・1人1人に発音させること。楽しかったです。中国についてもっと知りたくなりました。
- ・一人一人の発音を聞いて直してくれた点。
- ・初めて中国語を学ぶ人にも分かりやすく説明してくれて良かった。
- ・発音練習を単語表などを使ってしっかりやれた点が良かったです。教科書の補足説明が充実していた点も興味が満たされて良かったです。

(要改善点)

- △一人ずつの発音練習の待っている時間に何をすればよいのか分からなかった。
- △小テストで、1問ずつの時間が短くて、ピンインを考える余裕がなかったです。
- △小テストの内容が今回のプリントのようなものも含まれていると良かったです。
- △ビデオをもう少し見たかった。
- △時間をいつも過ぎるので、5限があることを考慮して欲しい。
- △板書が分かりづらかった。
- △DVDはあんまり意味がないと思った。(習っていない言葉が多くて、その時点での学習には不向きと感じた)
- △ホワイトボードの字が薄くて細い時があったため、常に太いペンを使って欲しかった。
- △中国の文化についてもっと聞きたかった。

上述の通り、発音に重点を置いた内容に対しては、肯定的な意見が多く見られた。科目として、授業の進度や文化紹介についての内容については、今後の課題と言える。

## 4.2 教員コメント

本科目の平成22年度授業には、麓慎一先生（新潟大学人文社会・教育科学系）と應雋先生（新潟大学非常勤講師・中国吉林大学北東アジア研究センター兼職研究員）の二名の教員がほぼ毎回到り聴講された。本科目が他の教員にはどのように映ったのかを知るべく、授業期間終了後に簡単なコメントを書いていた。ここでは特に、発音指導や、発音プリントについてのコメントを抜粋して紹介させていただく。以下は麓先生からのコメントである。

授業として当該中国語の授業は、大変工夫されており、初めて中国語を学ぶ学生にとって特に有益である。それは、なによりも授業の目的が、中国の著書や論文の講読読を目指すのではなく、中国語や中国社会に対する興味を受講者に喚起する、という点に置かれているからであろう。その目的に合致するように授業が構成されている点が、本授業の特徴である。(中略)

1 中国語を習得する上で、受講者が困難を感じる一つが発音であることは周知の

---

7 お忙しい中にもかかわらず、筆者担当科目の授業総括にご協力いただいた両氏に心より御礼申し上げます。

ことであろう。文字を覚えてそのまま発音すれば、ある程度の意思の疎通が可能であるロシア語やドイツ語などと異なり、日本語にない多くの発音を習得する必要がある中国語の発音を学ぶうえで、この授業は特に工夫されている。受講者は、教員が基本的な発音が習得できるように作られたプリントを何度も繰り返し練習することで日本語にない発音を集中的に学ぶことができる。受講者がなにより安心するのは、A4一枚程度の基本単語を何度も勉強し、習得すれば日本語にない発音を習得できるという点である。外国語の初級受講者にとっての負担の一つは、一度に多くの発音や文法事項を覚えなさいといけなさい、という点である。そのような心理的負担が受講者にかからないように工夫されている。

(中略)

以上のような点で初級中国語を習得しようとする受講者にとって当該授業は、学びやすくなっている。最も重要な点は、受講者が中国語を勉強するさいに、飽きないように工夫されている点である。初級の語学学習においても、著名な作家の文学作品などをひたすら辞典を調べて読むなどの授業もあるが、その言語にとりわけ興味がある受講者にとっては、そのような方法も意義があると思われる。しかし、多くの場合、第二外国語として、その言語にそれほど興味があるわけではない受講者に、習得しなければならない言語（この場合は中国語ですが）は、面白く、それほど難しくないと感情を喚起し、さらに勉強したい、という感情をもたせる、という点でこの授業は優れている。受講者が、このような感情を習得しようとしている言語に抱けば、自主学習などにも精力的に取り組むことにつながる。

以上の点から、初級外国語の授業としては、理想的な授業である、と位置付けられる。

次に、應先生からのコメントを抜粋する。

●一表多用の試みに関して

比較的早い段階に、先生はオリジナルの「覚えたら直ぐに使える単語表」というプリント（以下「単語プリント」）を作り、それを学習内容のベースにするようにした。通常、ピンインを教える段階では、学生に声調を強く認識させるため、第一声と第二声、第一声と第三声などの組み合わせで、読む練習用の単語表を用いることが一般的である。それと異なって、「単語プリント」の場合は、①ピンイン練習の効果を向上させる目的で、子音、母音、唇音、舌尖音、舌根音、舌面音、そり舌音、舌歯音、無気音、有気音及び声調の各要素を組み合わせ、一定の順に単語を列挙している。その上、②中国語の基本語順を覚えさせ、作文能力を速成させる目的で、文章の構成に不可欠な名詞、代名詞、動詞、形容詞など各種の「詞性」の単語をバランスよく列挙している。

合計15回の講義のうち、「単語プリント」が使われたのはその三分の二にもものぼる。結果的に、「単語プリント」はピンインの習熟にかなり役に立ったようであることは言うまでもない。何より、作文能力の速成において示されたその効果は予測をはるかに超える極めて高いものであった。特に授業期間半ばに入ったころから、意味的また

は実情的に中国の日常生活に合わない文章（言い方）が一部にあったことを除いて、学生が作った文章は非常に完成度の高いものになった。中国語で文章を書ける、会話を構成できる、という成果がはっきりと見えるようになったため、学生も一層「やる気」が出てきて、課題や宿題などにより積極的に取り組むようになった、と一種の好循環が自然に出来上がり、最終回まで続けられた。

「中国語オプショナル」の場合、他の講義よりも、これから中国語の勉強をするための一つの良いきっかけを生徒に提示するという重要な役割を持つ。また、短期間で基礎をしっかりと、という難点も有する。そのため、「単語プリント」のような、少なくとも発音、作文の両方を速成させられる教材の作成、使用は必要不可欠であるだろう。

(中略)

★学生各自による発音練習の時間が確保されている

音読テストを行った一回の講義を除いて、その他の14回の講義では、毎回90分の内、半分以上の時間（多い時は三分の二ほど）は発音練習に用いられた。さらに、そのうちの三分の一以上は、学生各自もしくは3～4人のグループでの発音練習の時間であった。

★練習方法の多様化が果たされている

発音練習に関しては、①学生各自で発音を確認する。②グループでピンイン・漢字・意味を同時に覚えていくためのカードゲームをやる。③グループで、それぞれ四つの単語を選んで、文書を作り、発表する。など多様な方法が用いられた。

とりわけ、先生は、毎回の講義で、各テーブルを回り、学生全員の発音を個別に指導できるよう、極力努めた。個別に指導を行う際、できるだけ発音方法のみを繰り返し提示・教授し、正確な発音を学生自身に考えさせて、最終的に自分で発声できるようにさせた。それによって、先生の発音を真似するだけで終わってしまうような通常の教え方にはならず、学生自身がどのように発音すればよいのかを考えてから音を出し、また発声した正しい音が頭の中に残り、その音をそのまま覚えておくことが可能となる。このような指導の方法は、一回の発音を正しくするよりも、これからの発音の勉強において、学生各自がある程度独力でできるようにするという点から見ると、非常に効果的であるのではないか、と思う。

その上、講義中では、限られた時間内で学生各自の取り組む姿勢や能力に合わせて、より効率的な指導が行われた。たとえば、読む練習の前に、「とりあえず二列、余力のある人は別の列も……」という指示を学生に出し、学生全員に一律同様の練習量を課することが回避され、学生の「やる気」を育てることに繋がった。

(以下、略)

以上、長めに抜粋したが、普段から外国・外国語をフィールドにして研究・教育活動を行っておられる同僚教員からの客観コメントにより筆者自身の担当科目を顧みるよい機会となった。教員による授業を受けた側からの率直なコメントはなかなか得られるものではないが、筆者自身も気が付かない、意図を超えた部分で本科目の成果があったようである。

## 5、終わりに

本稿では、主に発音教育に重点をおいた入門科目の実践をふり返った。発音練習用のプリントを独自に考案し、徹底してそのプリントを習熟させることで発音を習得させ、限られた語彙ではあるが作文力を養成するなど、週1コマ全15回の中国語入門クラスにおける効果的な学習モデルを示したと考える。発音に特化した授業運営ではあるが、日本人学生にとっての中国語発音の難易度を考えれば、それも致し方ないといえる。

本稿の趣旨は全15回の授業実践を切り口として、中国語入門科目の授業デザインを考察することにある。「新潟大学方式」には初修外国語の初級クラスとして週3回のスタンダードコース、週4回のインテンシブコースがあるが、授業デザインはトータルの学習時間、週コマ数に応じて、それぞれ検討・設定されるべきであると考え。そして、一週あたりのコマ数が多いコースほど、より一層、入門期における発音への意識を疎かにすることはできないと考える。なぜなら、発音習得の段階で躓くと「通じない→毎回同じ部分を注意される→つまらない」という悪循環に陥る可能性が高いからである。筆者は週4回授業のコースも他の教員とペアで担当する機会を得ているが、週4回の授業は学生にとっても教員にとっても長丁場である。飽きずに継続して学び続けるにも、教材の工夫や学生のモチベーションへの配慮が求められると言える。

「中国語オプショナルA」という科目自体は、まだまだ発展の途上である。これまでのところは発音教育に特化した授業展開であるが、今後、文法項目やあいさつ表現について、さらには中国文化の紹介などで、改善の余地は大いに残されている。発音教育を深化させる方策としても、単語表の二枚目を作成して、現状ではまだまだ不十分な語彙数を補うといったことも考えられよう。そして、「外国語到達目標のめやす」といった種々の学習指標も開発が進んでいることから、それらをフルに活用して、教授内容を内省しつつ標準化を図り、より使用場面を意識した表現を授業内で多く取り上げられるように工夫する余地がある。

本稿では、全篇を通して、中国語入門科目における発音教育の重要性を強調した。週4回のインテンシブコースにせよ、本稿で考察したオプショナルコースにせよ、発音教育に高いウェイトを保ちながら入門期の授業が展開されていくことが息の長い学びへつながるものと考えている。

### 【参考文献】

『常用汉语1500高频词语表』 国家汉办／孔子学院总部编《国际汉语教学通用课程大纲》附录八（pp107-123）。北京：外语教学与研究出版社，2009（原载“中国语言生活状况报告”课题组。中国语言生活状况报告（2006）。北京：商务印书馆，2007）